

次世代社会インフラ構想の要となる 大規模な計算基盤を備えたデータセンター 「Core Brain」を構築

～北海道苫小牧市に高いデータ処理能力を有するデータセンターを建設、
産官学へ計算基盤の提供を予定～

ソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」）と、ソフトバンクの子会社でデジタルインフラ専門会社の株式会社 IDC フロンティア（以下「IDC フロンティア」）は、地方にデータセンターの新規拠点を整備するに当たって経済産業省が一部の費用を支援する、令和5年度「データセンター地方拠点整備事業費補助金」の公募で、ソフトバンクと IDC フロンティアが整備事業者^{※1}として採択されました^{※2}ので、お知らせします。

今後、生成 AI（人工知能）の普及が進むことによって、データ処理やデータ処理に必要な電力需要の急増が見込まれる一方で、現在は国内のデータセンターの約8割が東京圏や大阪圏などに集中しており、データセンターのレジリエンスの強化や電力負荷の分散などが求められています。ソフトバンクと IDC フロンティアは、こうした背景を踏まえて、東京や大阪に並ぶ新たな拠点として、北海道苫小牧市に大規模な計算基盤などを整備したデータセンターを建設します。このデータセンターは、データの処理と電力の消費を全国に分散する、ソフトバンクの次世代社会インフラ構想の要となる「Core Brain（コアブレイン）」として構築し、将来的に敷地面積が国内最大規模の70万平方メートルで、受電容量が300メガワット超まで拡大する見込みです。

ソフトバンクと IDC フロンティアは、経済産業省による補助金を受けて、まずは50メガワット規模のデータセンターを、2026年度に開業することを目指します。また、高いデータ処理能力を有する大規模な計算基盤環境を今後新たに構築して、生成 AI の開発およびその他の AI 関連事業に活用する他、社外からのさまざまな利用ニーズに応えるため、大学や研究機関、企業などに幅広く提供していく予定です。なお、このデータセンターで使用する電力は、ソフトバンクの子会社で小売電気事業者の SB パワー株式会社および北海道電力株式会社から供給を受けて、北海道内の再生可能エネルギーを100%利用する、地産地消型のグリーンデータセンターとして運用を行う予定です。

ソフトバンクは、経営理念である「情報革命で人々を幸せに」の実現に向けて、デジタル社会の発展に不可欠な次世代社会インフラを提供するという長期ビジョンを、2023年5月に発表しました。この次世代社会インフラの構築に向けて、将来必要になるデータセンターおよび計算基盤環境の整備、データセンターの運用に必要な再生可能エネルギーの調達を進めていきます。

※1 ソフトバンクを幹事社として、ソフトバンクと IDC フロンティアによるコンソーシアムで整備予定。

※2 採択結果に関する詳細は、[こちら](#)をご覧ください。

■構築予定のデータセンターの完成イメージ

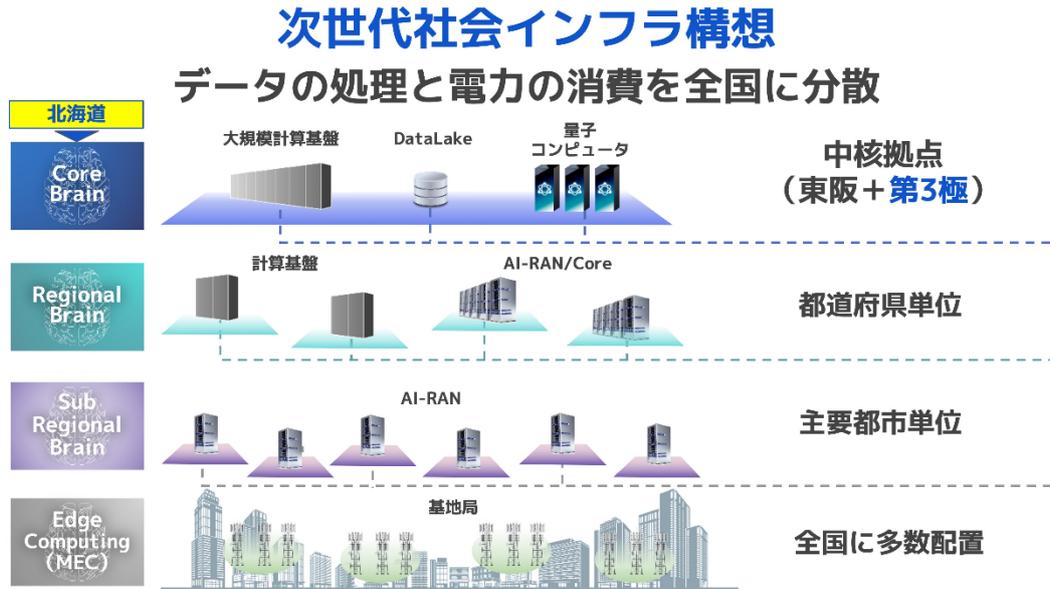


<近景>



<全景>

■構築予定のデータセンターの位置付け



■データセンターの拠点一覧



- SoftBank およびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
- その他、このプレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は各社の登録商標または商標です。